

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立湊小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業づくりにおいて、単元および単位時間について、児童の主体性を促す指導方法について模索した。このことを基に算数科に絞って、よりよい指導方法を開発していく。 年間5回の生活およびいじめに関するアンケートを行い、児童の状況の把握をおこなった。本取組を継続するとともに日常的な指導も充実を図っていく。 一定の制限の中、できる方法を検討し、地域の方との交流を継続していく。また、新たな人的資源とのつながりを求めていく。
2 学校教育目標	豊かな心をもち生き生きと自分の「よさ」を発揮できる湊っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 児童の主体性を伸ばす学習指導の在り方を追究し、学力向上を図る。 ② 充実した学校生活を送ることができるようにする。 ③ 地域のひと・もの・こととつながり、地域と共に歩む学校をつくる。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価			
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○児童の目標貸出冊数を達成させる。低学年100冊100%・中学年80冊100%・高学年60冊80%	●県調査と全国調査の結果分析を詳細に行い、研修に生かす。	A	●県調査の結果分析を詳細に行い、今後つきたい力や対策について全職員で共通理解することができた。 ●学習規律 家庭学習に関する児童の意識調査の3回目を行った。特に大きく下がった項目は見られなかった。児童は、落ち着いて学習に取り組むことができた。 ●目標貸出冊数を100%達成できた。地域のボランティアの方々の読み聞かせや図書館祭り、学級文庫の充実など、読書への関心を高める手立てを工夫することができた。	A	●特に積み上げが必要な算数については、しっかりと計算力などの基礎を身に付けさせてほしい。 ●論理的に考える力を算数で、考えたことを言葉で表すことができる力を国語で、というようにそれぞれの教科の特徴を踏まえた指導を願う。
	○(学校独自重点取組・任意)	○学習に対する意識調査において、関心及び主体性に関する質問において、肯定的に回答した児童の割合を80パーセント以上。	●授業の在り方について工夫を行い、児童が自ら学ぶ力を高める。 ●児童が学ぶ目的や学びへの意識向上のための工夫を行い、学ぶ力を育む。 ●図書室の活用や家談を推進する。	A	●1月中に仮説の検証を行い校内研究のまとめを作成した。2月に全職員でまとめをもとに成果と課題を話し合ったことで、研究を深めることができた。 ●学習に対する意識調査を12月に実施した。意欲に関わる質問について肯定的に回答した児童の割合はほぼ9割と前より伸びた。	A	●学習に向かう子供たちの雰囲気はよいと思う。子供たちの興味を引き出すように継続してよりよい授業づくりをして欲しい。 ●学習、生活の両面で、メリハリのついた活動の継続を望む。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳科の「生命尊重」に関する授業を年間1回以上行う。 ○身の回りの人に「ありがとう」の気持ちを伝える回数を増やす。	●教育の日等に道徳授業の公開を行う。 ●体験活動を通して、友だちとの関わりや地域のひととのふれあいの機会をふやす。	A	●生徒指導部のアンケートを基に、児童の心の状態の把握を行った。気になる児童には話を聞くなど、その都度、対応を行った。 ●全学年、予定していた神集島への訪問を実施することができた。また、独居のお年寄りの方に年賀状を出すなど、できるだけ交流を行うことができた。	A	●「教育の日」を利用して、道徳について親子で一緒に考えることは意義深い。家庭での会話が子供たちに与える影響はとても大きい。 ●来年度は、地域の行事も再開されるであろう。地域の方で子供たちの成長を支えていきたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生活アンケートで「いじめをゆるさない」気持ちを持つ子どもが85パーセント以上を目指す。	●いじめ防止に取り組み、いじめ発見や対応について職員連絡会や職員会議等で気になる児童の情報交換を行う。	A	●年3回の生活アンケートで「いじめを許さない」気持ちをもつ子どもが85%以上を達成することができた。 ●アンケートにおいて、いじめを受けた見たという児童に対しては個々の聞き取りをして対応できた。年間を通し、職員連絡会でも全職員で共通理解を図り、学級担任だけでなく、学校全体で対応できた。	A	●地域での子供たちの姿や学習中の様子からは、陰湿な雰囲気は感じない。アンケート調査と日頃のこまめな指導の継続を願う。 ●引き続き近所で子供たちの姿を見かけたときは、その様子を見ておく。
	●児童が夢や目標をもち、その実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○キャリアパスポートの記述を進め、将来の夢や希望に関するアンケートに肯定的な回答をした児童(小学5・6年)の割合が85%以上。	●各種活動で、児童に活動の見通し、学びの振り返り、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。	●各活動で、児童に活動の見通し、学びの振り返り、及び自らの達成感を感じさせる活動を仕組む。	A	●各種活動を実践する中で、キャリアパスポートを活用し、見通しと振り返りを行った。児童の感想の中に、達成感を感じた記述が多かった。学年末の振り返りでは、多くの児童が自らの成長に気づくことができた。	A
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●望ましい生活習慣の形成に向けて、生活習慣アンケートを全校に実施する。達成率を各学年全項目の平均65%を目指す。また、朝食を毎日食べる児童の割合、90%を目指す。 ●食の自己管理能力の育成に向けて、手作り弁当に取り組む。	●食育月間の6月11月の2回に1週間「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣アンケートを実施する。毎回振り返りを各自行う。達成率及び児童、保護者の取り組みの感想は、保健だよりにも掲載し保護者への周知を図る。 ●各学期に1回「手作り弁当の日」を設定し年3回実施する。毎回ワークシートに感想を書く。写真や感想を廊下に掲示したり、保健だよりに掲載したりすることで、食への興味関心を高める。	A	●11月に行った生活習慣アンケートでは、1学年が64%と1%目標数値に足りなかったが、全校平均が74%と6月の全校平均69%と比べ、5%上がった。また、朝食を毎日食べる児童の割合は、各学年で96%以上となり目標を達成できた。 ●「手作り弁当の取り組み」では、積極的に取り組む姿を感想でも目につけ、実施している様子を廊下に掲示することは、できなかったが、食育だよりとして発行し、児童や保護者に情報発信することができた。	A	●朝食の喫食率が高いことは安心する。 ●生活習慣も食育も家庭教育が基礎となる。子供たちに直接的に指導していくことも大切であるが、家庭への啓発も継続していかねばならないと思う。地域でも機会を捉えて話題にする。
	○たくましい体づくりの推進	○持久走大会へ向けてのマラソン週間や縄跳び運動を通して、持久力の向上を目指す。	●持久走大会の4週間前から、業前で、持久走カードを使用し、運動場50周を目標に取り組み、達成率90%を目指す。 ●縄跳び2分跳び達成率全校で50%を目指す。	A	●持久走については、意欲的に取り組み目標達成できた。 ●縄跳びは、種目とび以外でも2分間連続とびを行った。中には7分以上連続して跳ぶ児童も出て全学年目標が達成できた。また、大縄での8の字跳びにも挑戦することで、体力の向上につながった。	A	●学力と共に体力向上も大切である。子供の遊び場や近所の友達が少ない現状、地域や保護者が率先して場所や機会をつくる必要がある。そのためには、保護者同士の横のつながりが不可欠である。今後も学校の工夫した取組に期待する。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	●毎週1回の定時退勤日を定め、完全実施をめざす。 ●会議時間の終了を退勤時刻の15分以上前と設定し、90%以上の割合で達成する。	A	●毎週金曜日の定時退勤日の実行率は約8割程度と概ね達成できている。2割の職員も定時30分以内には退勤できている。 ●会議終了後の余裕時間の捻出は、中間評価時と比べて10分程度伸びている。	A	●授業や学校本来の活動に時間を使うことができているのはよいことである。今後も子供たちのために効果的かつ効率的な勤務状態であることを望む。
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域とともにある学校づくり	○地域人材の活用や地域との交流	○地域人材を各学年で年間1回以上活用する。 ○児童が年間1回以上、地域の行事に参加する。	●公民館、地域団体などとの連携を図り、活動を展開する。 ●「人材リスト」を活用し、地域人材と日常的につながりをもつとともに、地域行事の日時と内容を紹介し、児童の参加を促す。	A	●本年度も、全学年神集島に行くことができた。3～6年生の総合的な学習の時間に、旧神集島小学校や海岸等の清掃活動を行った。4年生ボランティアによる鉢植えの花の寄贈など、公民館との交流ができた。地域の方を講師に迎えて、5・6年生で版画教室を行った。青年会議所の方々を招いて、6年生で職業についての交流会を行い、いろいろな職業についての学びを深めることができた。	A	●感染症で疎遠になりつつあった地域との交流を来年度は再開していくよう各団体の集まりのときに働きかけていく。 ●コロナ禍前のように地域行事への子供たちの参加を期待している。
○特別支援教育の充実	○一人一人の個性や特性を生かした指導及び支援の充実	○校内支援会議などを充実させ、支援が必要な児童に対して、連携し、個に応じた対応ができると答えられる教員を80%以上にする。	●必要に応じてケース会議を開き、支援が必要な児童の情報を共有する。困り感を持つ子どもや保護者に寄り添い、校内支援会議を開き、支援していく。	A	●必要に応じてケース会議を開き、対応策を話し合い、職員会議や連絡会で学年の困り感のある児童の情報を共有して支援にあたることができた。最後に1年間の振り返りを行う。特別支援学級の継続や新規入籍に向けて保護者や幼稚園と連携しながら準備をし、無事に終えることができた。	A	●本校は、昔から、障がいのある子にも寛容な学校であった。それが、この地域のよさのひとつだと思う。今後もその気風が受け継がれていることは喜ばしい。継続していくことを願う。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	重点目標①について、児童の主体性を伸ばす学習指導の在り方を追究し、学力向上を図ることについては、算数科の問題を把握し見直しを立てる場面と学習したことをまとめる場面に焦点を当て、指導方法の改善に取り組んだ。自分の方で問題解決に取り組もうとする姿勢が見られるようになってきた。来年度は、1単位時間の手立てに加え、長期的なプロセスを児童と共有し、学習をデザインしていくことに取り組む。 重点目標②について、充実した学校生活を送ることができるようにすることについて、学校生活についてのアンケートを採るなど教師側からの取組に加え、児童の発意で決めた「友達を大切にしたい湊小」の合言葉のもと児童の自治的活動に取り組んだことで、落ち着いた生活を送ることができた。今後も凡事徹底により、学校生活の地盤を固めていく。 重点目標③地域のひと・もの・こととつながり、地域と共に歩む学校をつくるについては、新型コロナウイルス感染症予防に努めながら、本年度も可能な限りの活動は行うことができた。来年度は、学校主体の地域交流を推進していくと共に地域の各種団体主体の行事に協力することで、学校、家庭、地域のそれぞれに互恵性のある活動を行っていく。
5 総合評価・次年度への展望	